

ファーストクラスに 乗る人のお金

自分の器が大きくなる61の方法

中谷彰宏



AKAHIKO



この本は、3人のために書きました。

- ① 勉強はしたいけど、勉強代がないのでできないと言っている人。
- ② どうしたら稼げるようになるかを、考えている人。
- ③ 自分も家族にも、お金持ちになる人の習慣を身につけたい人。



01

プロローグ

お金の稼かせぎ方の前に、

お金とのつき合い方を覚える。

ファーストクラスに乗る人は、お金を持っている人ではありません。

「お金の器うつわ」を持つている人です。

器がなければ、お金は入ってきません。

なかには器がないままお金持ちになる人もいます。

ただし、そのお金は一瞬でなくなります。

器を手に入れることで、今はお金がなくても、やがてお金は入ってきます。

その器の大きさにしか、お金は入ってこないのです。

たとえギャンブルで大金が手に入ったとしても、器がないところではお金はこぼれ落ちます。

お金が入る前に、まず器をつくっておくことです。

「器」は、お金に対する考え方です。

たとえば、コンビニでトイレを借りたら何か買うだけでいいのです。

「そんなところでムダづかいしてはいけない」とか「少しでも安いところで買ったほうがいい」というのは、その人の中にお金の器ができていないのです。

急激にお金ができた人に、お金のアドバイスを求めるのは間違いです。

アドバイスは、お金の器を持っている人に求めたほうがいいのです。



自分の器が大きくなる方法 01

「**お金が入る器**」をつくろう。

第 1 章

できる人は
使うタイミングを
知っている。

できる人は使うタイミングを知っている。



02 お祝い金は、 事前に送る。

普通の人は、披露宴に招かれると、受付でお祝い金を渡します。

ファーストクラスは、披露宴の連絡をもらった時点で、お祝い金を送ります。

披露宴は、お金の支払いが先に発生します。

それをしゅうぎご祝儀でなんとかまかな賄います。

それをわかっている人は、先にご祝儀を送ってくれます。

わざわざお金を届けに行く必要はまったくないにもかかわらず、お金だけ先に届けてくれるのです。

受け取る側からすると、こんなうれしいことはありません。

当事者は「先にください」「前払いにしてください」「振り込んでください」とは言えないのです。

結婚式の当日はバタバタなので、現金がよくなりません。

悪意があつて詐欺にあうということではありません。

誰かの引出物に入つたまま、どこかに行つてしまうのです。

披露宴は、いろいろな人が係りになつていて、責任者がはつきりしない状態です。

当事者の新郎新婦は忙しすぎて、お金のことなどかまつていません。

それを考えると、当日よりも、むしろ後日に渡すほうがいいのです。

当日に渡すと、最もめんどくさいことが発生します。

とはいえ、受付で名前だけ書いたのでは、払つていない人のように見えます。

それは、そういう仕組みを知らないだけです。

受付で「おめでとうございます」と言つて、名前だけ書いて中に入つても全然OKです。

そこで「あー、お金は？」と言われることはないのです。

みんなが集まつて、ご祝儀をいくらにするかという相談をします。

金額の問題ではなく、タイミングの問題です。

「いつ」ということが大切です。

迷つたら、早いほうが正解です。

これをファーストクラスはやっているのです。



自分の器が大きくなる方法 02
当日より、前払いにしよう。

『ファーストクラスに乗る人のお金

—自分の器が大きくなる61の方法』

の立ち読みは、いかがでしたでしょうか？

続きは、全国の書店およびインターネット書店でお求めください。電子書籍でも販売中です。

・[Honya Club](#)

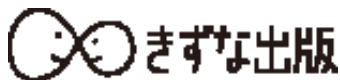
・[紀伊国屋書店ウェブストア](#)

・[e-hon](#)

・[Amazon](#)

・[楽天ブックス](#)

・[セブンネットショッピング](#)



<http://www.kizuna-pub.jp>